

## V21b 野辺山偏波強度計アンテナコントロールシステムのLinux化

篠原 徳之(国立天文台 野辺山太陽電波観測所)、川島 進(国立天文台 先端技術センター)

野辺山太陽電波観測所では、現在6台の偏波・強度計アンテナが日の出から日没まで毎日観測を行っている。このアンテナのコントロールシステムが NEC PC98+DOS+Turbo C という組み合わせで作成されているが、ご周知のとおり NEC はすでにPC98シリーズのサポート体制を終了しており、現行機が壊れた段階で、修理が不可能な状態にあり観測が止まってしまうことになる。そこで、ハードウェアを

汎用 F A コンピュータ + Linux+GCC というかたちに変更を行い、今後の観測を不安なく行えるようシステムを構築した。

野辺山太陽電波観測所では、すでに観測系のコントロール計算機はほとんどがLinux化されており、今回の偏波強度計の改修により、すべてのコントロール計算機システムがLinux化されることになる。これにより、ウィンドウズやDOSのもっていた問題点がすべてクリアされ、今後の拡張性にも問題がなくなる。また、ソースの開発もフリーのコンパイラを利用して、将来的に開発環境が無くなるようなことがないように考えて開発を行った。

本発表では、システムのDOS Linux変換で苦労した点などを挙げ、解説をおこなう。